

児童生徒の好ましい傾向と学習及び生活上の課題（概要）

藤井寺市教育委員会は、昨年度実施された平成27年度全国学力・学習状況調査の結果も踏まえ、今回の調査結果を分析いたしました。

学習については、小中学校で「国語の授業で、資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりする」「算数や数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える」という回答が平成27年度の結果に比べ若干増えています。このことは、ふだんの授業に課題解決型の学習を取り入れ、子どもたちが主体的に学ぶ機会が今までより多くなっていることを表しているものと思われますが、依然、全国や大阪府に比べると数値は低く、継続的な課題になっています。総じて、基礎的な学力は身に付いてきているが活用力にはまだまだ不十分な状況が見られることから、身についた内容を繰り返し活用する場面（話し合いの場面・書いて説明する場面等）や応用的な学習を増やすなど、さらなる授業の工夫改善に取り組む必要があります。

生活については、学校のきまりを守っていると回答した児童・生徒の割合は高く、学校生活における一定の落ち着きは見られるが、日々の学校生活を通し、望ましい行動が定着するよう指導することが大切です。いじめに関する質問について、「いじめはどんな理由があってもいけない」と感じている子どもたちの割合は高くなっているものの、今後も、児童・生徒の主体的な活動を重視し、いじめ防止に対する意識をさらに高め定着させていく必要があります。「毎日2時間以上テレビを見る・ゲームをする・スマートフォンをする」と答えた子どもの割合が、全国や大阪府の割合と比べて高くなっている状況から見れば、心身の健康、家庭学習の時間確保といった面からも、計画的で規則正しい生活を心懸けることが大切です。

今後も、児童・生徒が将来の夢や目標を持ち、いきいきと日々の生活を送ることができるよう、自己肯定感と豊かな人間性を育む教育に取り組めます。

本調査によって見られる本市児童・生徒の好ましい傾向と学習及び生活上の課題の概要については、以下のとおりです。

（１）学習について

児童・生徒の好ましい傾向

- 学習した基礎的・基本的な知識や技能を身に付けていること
- 国語において、漢字の読み書きができていること
- 算数において、基礎的な計算ができていること
- 資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりすること

課 題

- 解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えること
- 自分で課題を立てて解決していく学習に取り組んでいること
- 複数の情報を的確に関連付けてまとめることや伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くこと
- 基礎用語や基礎知識、式や言葉を使って論理的に説明すること
- 目的や意図に応じて記述すること

(2) 生活について

児童・生徒の好ましい傾向

- 自分には良いところがあると思うことができること
- 学校のきまりを守っていること
- 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していること
- ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがあること
- 家の人と学校での出来事について話をする事
- 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があること
- 読書をするのが好きなこと

課 題

- テレビやビデオ、ゲーム、メール等を「見たり」「したり」する時間が長すぎないように決め、家庭学習や読書等の時間を確保できるよう、計画的にバランスよく時間を活用すること
- 人やものとの出会いを通じて、自分の良さに気づき、自分の将来の夢や目標を持ち自尊心を高めること（中学校において）
- 家庭での学習の時間を増やすこと
- 朝食を毎日食べること（中学校において）

学習面の課題から、各学校で「生きる力」（確かな学力・豊かな心・健やかな体）を育み、子どもたちが意欲的に学習し、学びの達成感を感じ自己肯定感が育まれる授業が何よりも大切です。

そのため、学校は多様な学習形態や指導法を組織的に研究し、日々の授業で実践する必要があります。

また、「本やインターネット等で、必要な情報を的確に集める活動」「話し合いで、考えを広げ深める活動」「自分の考えをまとめる活動」「自分の考えや説明したいことをわかりやすく表現する活動」等の言語活動の実践をさらに進めていく必要があります。

教育委員会では、児童・生徒が生き生きと活躍する授業をめざし「学力向上推進支援事業」等とおして、各学校の特色に応じた授業研究、授業作りの研修会の開催、個に応じた習熟度別指導の工夫等が推進されるよう支援してまいります。さらに、豊かな学びの環境作りのため、学校図書館支援事業やICTを活用した学習の充実に、より一層取り組んでまいります。